

## 第1章 都市活動からみた 本市の特徴

本章では、「住まいの選択」や「通勤通学」、買物などの「日常の生活行動」、趣味や飲食などの「余暇活動」、といった市民等の都市活動から、本市の状況と課題を整理しています。また、周辺都市との広域連携や機能分担を踏まえた本市の特徴を明確化しています。

# 第1章

## 都市活動からみた本市の特徴

旧計画・上位計画・関連計画の把握、市民意識調査、統計的調査等の基礎調査をもとに、市民の広域における都市活動の状況と課題及びそこから読み取ることができる、本市の特徴を整理しています。

### 1-1 広域における大阪狭山市

図 1-1 のとおり、本市周辺には国道309号や国道170号、阪和自動車道等の交通網が整備されており、本市から大阪都心部や堺市のほか、広域的な交通アクセスが可能となっています。また、金剛駅と関西国際空港をつなぐバスの運行や、南海電気鉄道高野線（以下「南海電鉄高野線」という。）の利用により大阪都心部へのアクセスが可能であるなど、広域的な移動も容易であり、利便性の高い場所に位置しています。また、骨格となる道路を軸に道路ネットワークが形成されており、隣接地の堺市、富田林市及び河内長野市といった日常生活圏における移動が容易な環境にあります。

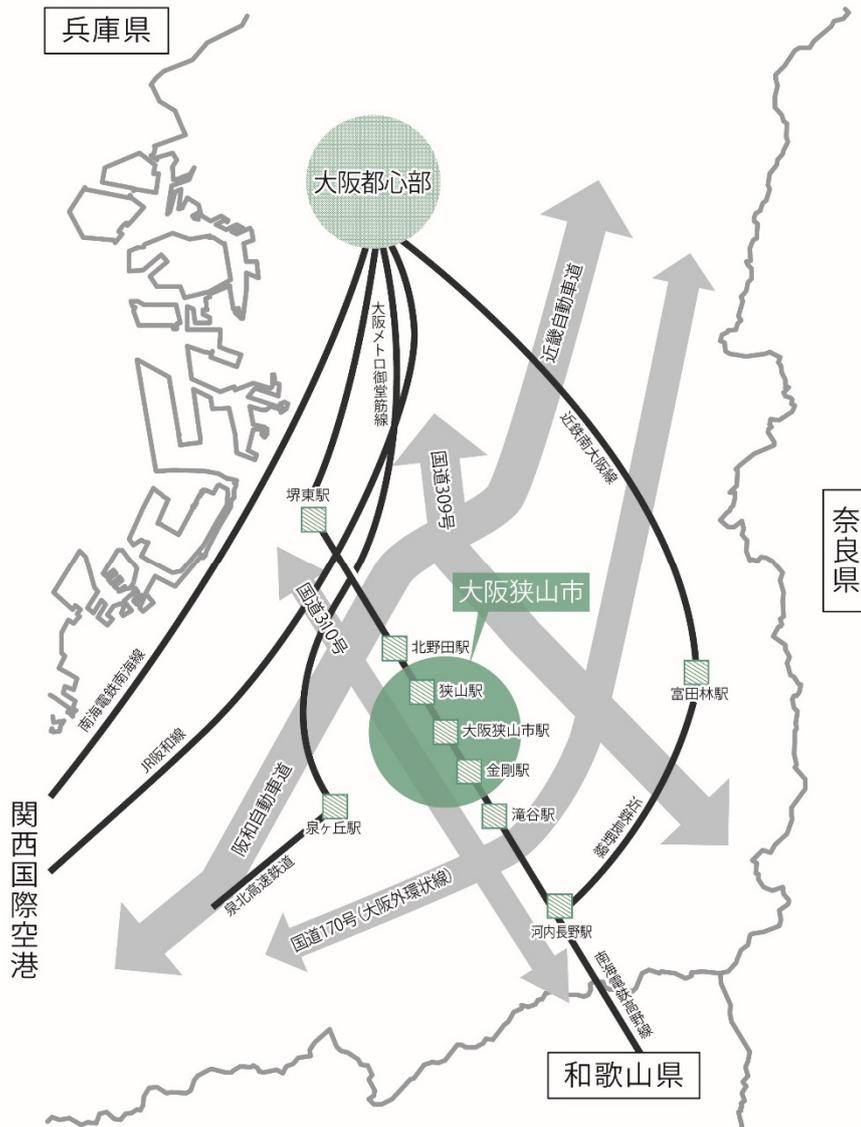


図 1-1 交通ネットワーク  
(出典：第五次大阪狭山市総合計画)

## 1-2 都市活動からみた本市の状況と課題

他市を含む広域における利便性が高い本市において、市民の「住まいの選択」や「通勤通学」、日常的な買物などの「日常の生活行動」、趣味や飲食などの「余暇活動」といった、広域における都市活動に着目することで、本市の状況や課題を把握します。

### (1) 住まいの選択及び通勤通学からみる本市の状況と課題

#### 定住（転出・転入）を取り巻く状況

- ・ 図 1-2 及び図 1-3 のとおり、本市では転入者が転出者を上回っている状態が続いており、堺市や富田林市など近隣市からの転入が多くなっています。図 1-4 のとおり、転入理由について、住宅の広さや家賃、まちのイメージ、治安のよさ、水・みどりが評価されており、これら良好な居住環境は、今後も維持・向上していく必要があります。

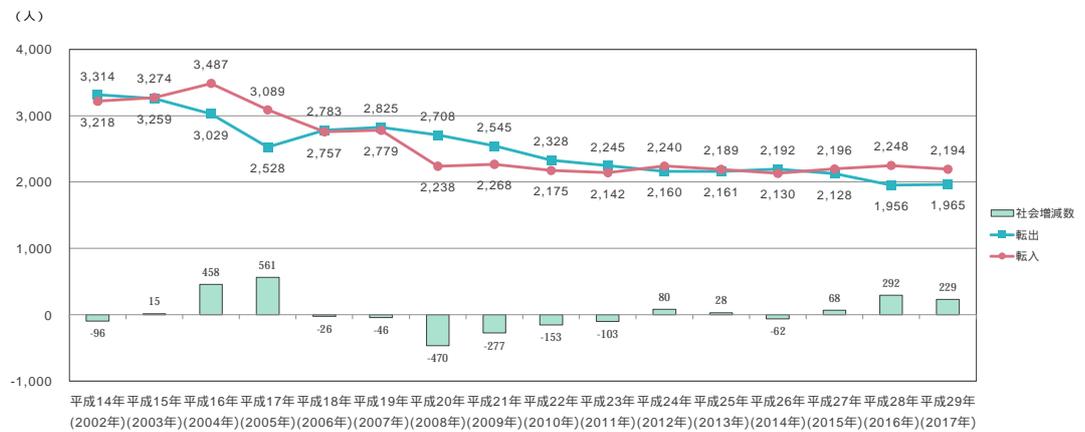


図 1-2 社会動態の推移

(出典：総務省「市区町村のすがた」、住民基本台帳人口移動報告)

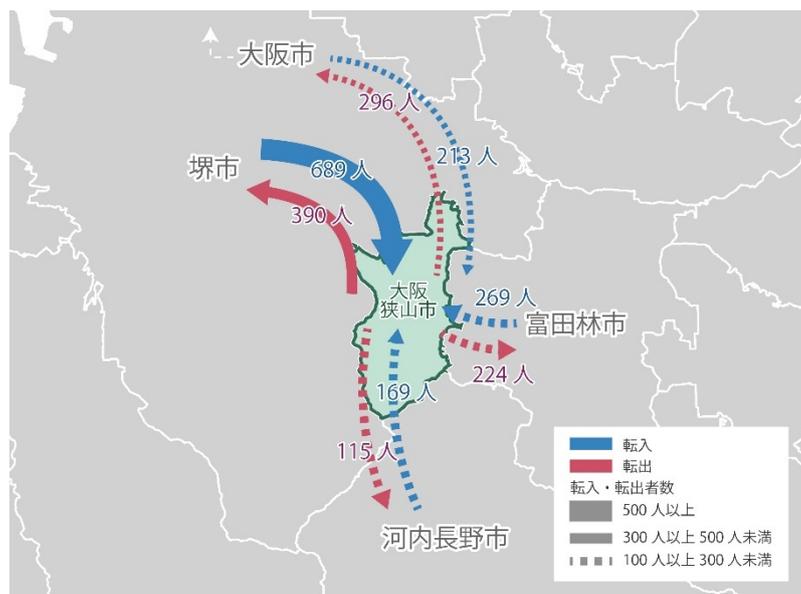


図 1-3 転出人口・転入人口

(出典：平成 27 年 (2015 年) 国勢調査)

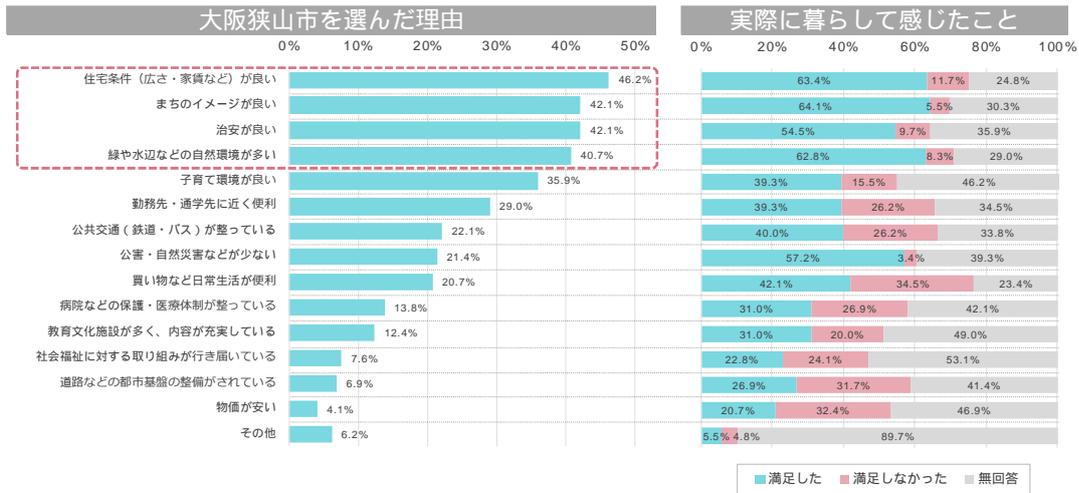


図 14 転入者の本市を選んだ理由 (N =145)  
 (出典：平成 27 年 (2015 年) 転入者アンケート調査)

### 通勤通学及び昼間人口を取り巻く状況と課題

・ 図 15 のとおり、市民の通勤通学は流入人口より流出人口が多く、特に大阪市や堺市への通勤通学が多くなっています。また、図 16 のとおり、市内の昼間人口は増加傾向にあるものの、夜間人口を下回っており、大阪府や堺市の平均よりも低いことから、人口の流出に伴う地域の活力の低下を抑制するとともに、本市に居住しながらも、快適に通勤、通学ができる、利便性の高い居住環境を形成する必要があります。

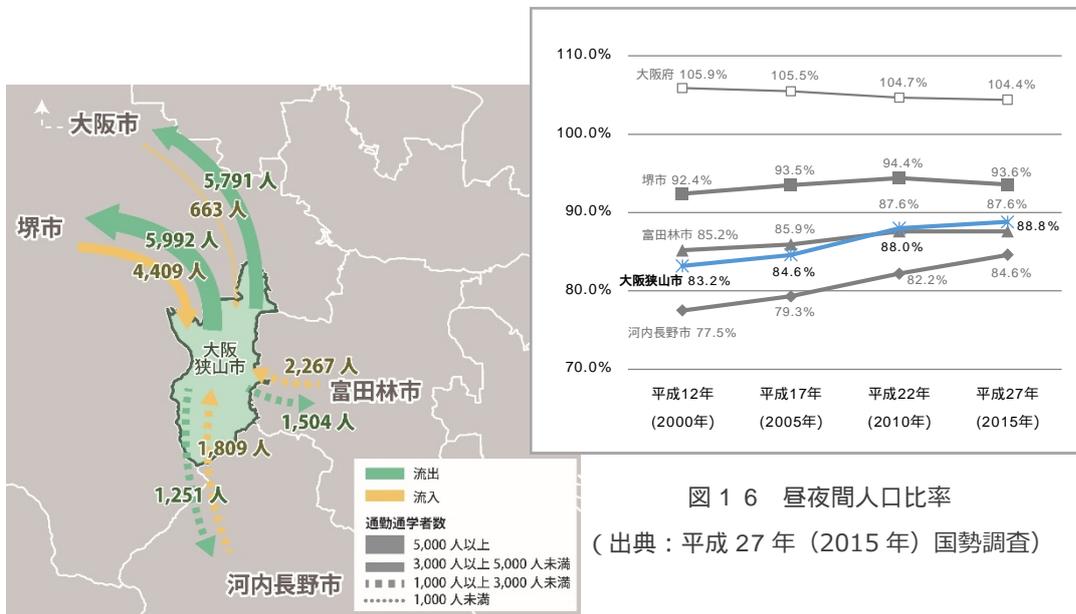


図 16 昼夜間人口比率  
 (出典：平成 27 年 (2015 年) 国勢調査)

図 15 流出人口・流入人口

(出典：平成 27 年 (2015 年) 国勢調査)

## (2) 市民の日常の生活行動からみる本市の状況と課題

### 日常の生活行動を取り巻く状況と課題

・図 1-7 及び図 1-9 のとおり、食料品の購入など市民の日常的な買物は市内（図 1-7 の点線の部分）あるいは、市外の隣接地での買物が多くなっており、図 1-8 及び図 1-9 のとおり、衣類・雑貨など年数回の買物は堺市、大阪市、和泉市など市外（図 1-8 の点線の部分）での買物が多くなっています。これら、市民の日常の生活行動の状況を踏まえ、市内と市外に求められる機能に応じた居住環境を形成する必要があります。

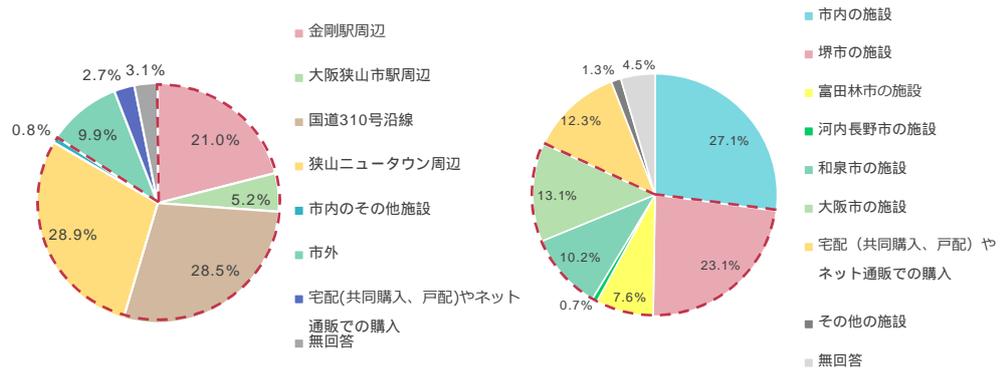


図 1-7 左：食料品・日用品などの最もよく行く買物先

図 1-8 右：衣類、雑貨など年数回程度の買物について、最もよく行く買物先

(出典：都市計画マスタープラン改定に関する市民意識調査) (SA・N = 1469 (両図共通))



5%未満の先行や宅配やネット通販での購入があるため合計は 100% になりません。

図 1-9 市民のよく行く買物先

(出典：都市計画マスタープラン改定に関する市民意識調査)

### (3) 余暇活動からみる本市の状況と課題

#### 余暇活動を取り巻く状況と課題

・図 1-10 のとおり、趣味や飲食など市民の余暇活動は市内より市外が多く、流出傾向にあり、特に若い世代でその傾向が顕著となっています。余暇活動の市外流出に伴う地域活力の低下を抑制するために、特に若い世代等にとっても、魅力と感じられる余暇活動の場を創出する必要があります。

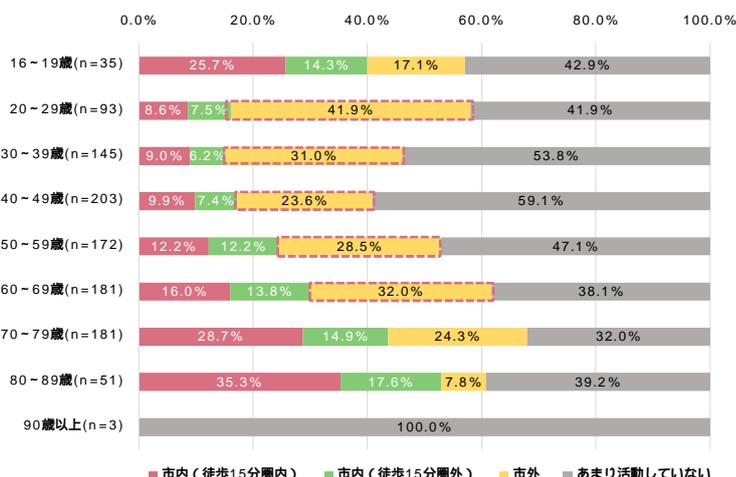


図 1-10 趣味や飲食など余暇活動の状況：趣味・習い事・サークルなど、最もよく行く活動場所 (SA・N = 1469)  
(出典：都市計画マスタープラン改定に関する市民意識調査)

・図 1-11 のとおり、本市のシンボルである狭山池、近隣市へつながる河川空間、堺市との境界部に位置する天野街道など、本市の水・みどりは高く評価されており、日常的に多くの人を訪れています。今後もこれら地域資源を保全・活用することで、地域資源に触れる機会を増やし、これらを身近に感じられる環境を形成する必要があります。

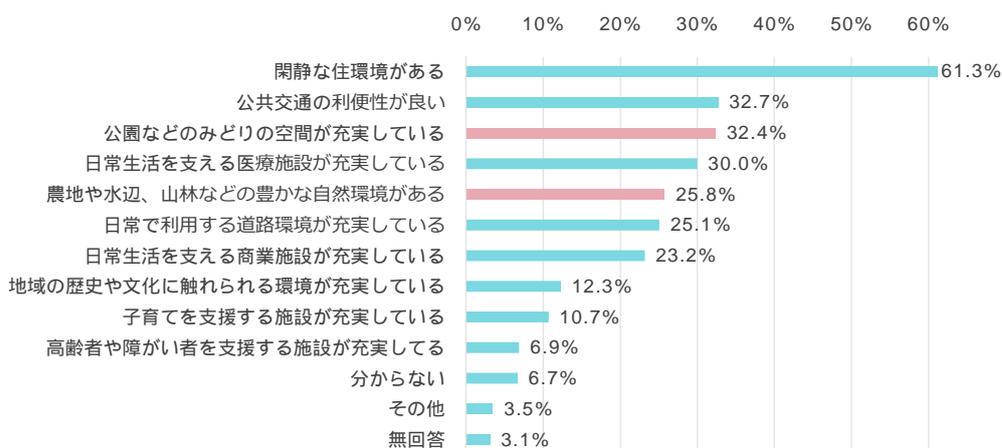


図 1-11 住まいの身近な地域について評価している部分 (MA・N = 1469)  
(出典：都市計画マスタープラン改定に関する市民意識調査)

### 1-3 都市活動からみた本市の特徴

大阪南部の中心に位置し、市域の四方で近隣都市と接する本市の立地特性を踏まえつつ、都市活動からみた本市の特徴を次のように整理します。

1-2 では、市民の都市活動の多くが、大阪市や堺市の都心部や近隣市を含む広域において展開されていることが明らかになりました。

これらの特徴を踏まえ、周辺都市が有する機能を享受するとともに、周辺都市に不足する機能を提供するといった広域連携や機能分担の考え方も含めた柔軟なまちづくりを展開していく必要があります。

#### 特徴1 多様化する居住ニーズに応える高質な住まいの供給

本市は、ゆとりある居住環境や大阪市や堺市の都心部への通勤通学環境などに恵まれているとともに、若者世帯などでも取得可能な住宅ストックが形成されていることから、居住地として多くの人に選ばれています。

本市は大阪南部の広域都市圏における高質な住まいを供給している特徴があり、将来にわたり、継続して良質な住宅ストックを形成していくことで、各地域の持続性を高めるとともに、多様化する居住ニーズに応えられる居住環境を形成することが求められています。

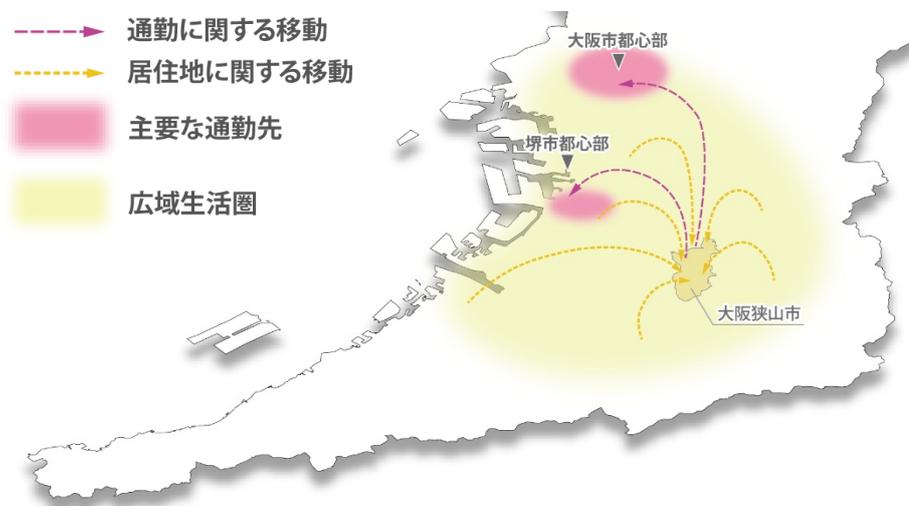


図 1-12 特徴1を踏まえた大阪南部における大阪狭山市のイメージ

#### <多様な居住ニーズのイメージ>

大阪都心部での就業を継続しつつ、ゆとりがあり、落ち着いた居住環境での子育てを両立する暮らしをしたい。

テレワークにより、通勤負担が減ったため、現在の仕事も継続しながら、農業で一部自給できる暮らしをしたい。

## 特徴2 近隣都市と利便性を補完し合う「日常生活圏」の形成

交通基盤が整備されている本市においては、鉄道や自動車の利用により、日々の買物や通院といった日常の生活行動を支える機能をはじめ、各種都市機能を、市域を超えて、柔軟に選択・活用することが可能です。

また、高質な住まいの供給をめざす本市においては、人口減少・少子高齢化社会が進行する将来においても、このような選択肢が多く利便性の高い日常の暮らしを維持するため、近隣市の都市機能を有する拠点へのアクセスが容易な「日常生活圏」を形成することが求められます。

休日の買回り品の購買や余暇活動、通勤通学等については、今後も鉄道等の充実した交通基盤を基本に、大阪市や堺市の都心部をはじめとする「広域生活圏」と連携することで、都市機能を適切に分担することが求められます。

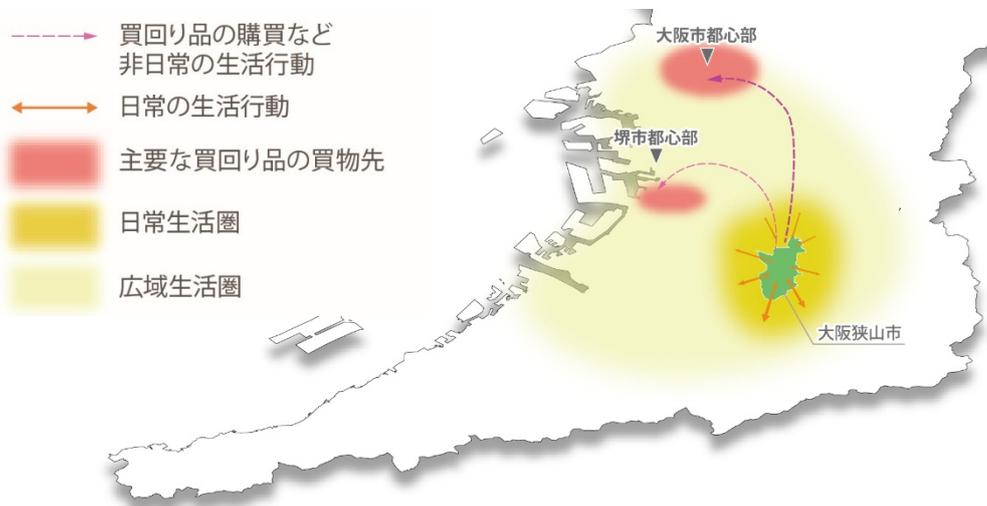


図 1 13 特徴2を踏まえた大阪南部における大阪狭山市のイメージ

### 「日常生活圏」と「広域生活圏」

市民の日常生活に必要な不可欠な生鮮食品や日用品の購買、通院、子育て支援施設や通所型高齢者福祉施設の利用といった、日常の生活行動の展開が想定される圏域を「日常生活圏」として設定します。

都心部への通勤通学、買回り品の購買、休日に行う余暇活動など、市民の多様な都市活動の展開が想定される圏域を「広域生活圏」として設定します。

### < 選択肢が多く利便性の高い暮らしのイメージ >

自動車運転免許を返納しても、バスや電車で慣れ親しんだスーパーに買物に行くことができる。

子どもが成長し、本市に引っ越したけど、昔から通っていた病院にも、車やバスで気軽に行くことができる。

### 特徴3 さまざまな地域資源とつながる余暇活動の場の提供

本市には狭山池をはじめ、身近な自然環境や地域に息づく歴史文化遺産が豊富にあります。マイクロツーリズムへの関心の高まりや、新しい生活様式への適応、屋外空間への需要が拡大している中、百舌鳥・古市古墳群など本市周辺の歴史文化遺産などと連携して、本市の自然や文化資源を活かした広域的な余暇活動の場を提供する必要があります。



図 1 14 特徴3を踏まえた大阪南部における大阪狭山市のイメージ

#### <余暇活動・文化体験のイメージ>

大阪都心部で開催される国際的な会議に関連したイベントとして、狭山池の歴史や、市民の生活と調和した魅力的な自然空間を体験してもらおう。

休日に、水辺のアクティビティや、南河内の食材を使った食を堪能することを目的に、南河内や大阪都心部から人が集まる。

